



共同通信



2008年6月15日 142(352号)

日本基督教団 西宮公会教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町10-22
0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email:koudou@gamma.ocn.ne.jp
<http://www.koudou.jp/> 振替01170-3-4901
ホームページアドレスが新しくなりました。

時代にふり回されるのではない 自分の人生を語ってほしい、
あの時 心を躍らせて生きた 自分の人生を語ってほしい、
後悔に 身をふるわせたこともある 自分の人生を語ってほしい、
笑い 泣き 歯ぎしりをした 自分の人生を語ってほしい、
今日 こんな決意をしたという 自分の人生を語ってほしい

To tell the story 42 『震災の記憶』

中国の大地震、ビルマのサイクロンなど、地球の各地では大きな災害にみまわれています。その報に接するたびに、13年前の阪神淡路大震災のことを思い起こさずにはいられません。私たちは西宮で被災しました。あの日、1月17日は二女の出産予定日でした。前日に撮影したビデオに、今は高校2年生になった長女が「あした生まれる日だね。早く生まれてくればいいなあ。」と話しているのが映っています。まさかあんな地震が迫っているとも知らずに。

早暁の大きな音に目が覚まし、何事かとふと立ち上がった瞬間、大きな揺れが来ました。立ってはおれず

座り込みながら、私の寝ていた枕にタンスが倒れるのが見えました。大きなお腹と3歳の長女におおいかさったのを覚えています。異常に長い時間を感じました。激しい揺れがおさまったあと、次の揺れで家が倒壊するかもしれないと思い外に出ました。近所の人たちも、同じ思いでいたようで次々と外へ出てきました。出てきていない人の安否を確認しながら、明るくなるのを待ちました。だんだん明るくなるにつれて、周りの様子がだんだんわかってきました。電柱が倒れたり、門がゆがんだりしているものの、他の地域と比べればそれほど大きな被害ではありません 1

でした。しかしそれは神戸などの被害を知った後でのこと。そのときは、これは大変なことになった、と思いました。もしこの中で産まれる事になったら、とすぐに出産予定の市立中央病院へ走りました。病院は屋上の貯水槽が壊れたのか、階段が水浸しでした。けがをした人やすでに亡くなった人が次々と運び込まれて来ました。不覚にもそれほどの被害とは思わなかった私は大きなショックを受けました。絶対ここでは受け入れてもらえない、なんとかしなければならぬ、しかし何とするのか、途方に暮れました。それでも忙しそうに走り回っている看護師さんに「こちらの病院でお世話になっているものです。今日が出産予定日なんです。もし産まれそうになったら受け入れてもらえますか。」と尋ねました。その看護師さんはにこっと笑って、「どうぞいつでも連れてきなさい。」と言ってくれました。体中の力が抜けるのを感じました。

結局、産まれたのは5日後の1月22日でした。3400グラムを超える大きな女の子でした。水がありませんでしたから、産湯にはつか

ことができませんでした。しかし大きな声で泣いている、元気な赤ん坊でした。多くの人が傷つき、あるいは命を落とした中で、この命は産まれてきました。あの時私たちは「生きるとは」なんて考える暇もないほど、必死に生きました。そしてなにより産まれるまでの間、産まれてからも本当にいろいろな人にお世話になりました。助けていただきました。これはどう感謝しても、感謝しきれるものではありません。ありがとうございました。

中国やビルマで、今回の災害により多くの方が命を失ったり、けがをしたり、財を失ったりしています。一日も早く、いや無理せずゆっくりでも、復旧そして復興をと思わずにはいられません。

(森井 裕史)

日本基督教団西宮公会集会所案内

早天祈禱会	毎月1日午前6時30分から	於：西宮公会集会所
教会学校	毎週日曜日午前9時から	於：西宮公会礼拝堂
聖日礼拝	毎週日曜日午前10時45分から	於：西宮公会礼拝堂
聖書研究祈禱会	毎月第1・3水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
読書会	毎月第2・4水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
ゆっくり聖書を読む会	毎月第2火曜日午前10時から	於：西宮公会集会所

ガレカ

ガレカは今まで見たどの絵よりも大きかった。内包されたエネルギーがごとと迸りだされた。一九三七年スペイン内戦のさなか、ピカソならずとも誰も抑圧されて自由の尊さに気付いた。絵の枠を越えて、柱の奥にも壁の外にも恐怖が飛び出していた。三次元の世界に閉じ込められた人々の魂が、四次元、五次元の世界を望んで、私に手を伸ばし時間を超え、助けを求めてきた。それから人間の可能性を右に左に魅せつけられたのはサーカスでだった。どれだけの信頼をもって私たちが他人に無防備になれるのか。家族間ですら殺し合いがあるという。昨今だ。誰か信じることが自分が向って開かれたときばかりではなくした。

(一青窈)

ルカによる福音書で、「貧しい人、体の不自由な人、足の悪い人、目の見えない人」(14章13節、21節)などと呼ばれている人たちにとって、自分たちがどうあがいてみたとしても、社会そのものがこの人たちには生きにくかったはずです(ちなみに、「貧乏人、不具者、足なえ、盲人」となっていた日本語が、「不快語」ということで「貧しい人、体の不自由な人、目の見えない人」などの日本語に書き換えることで、状況をそのような現象として軽く描写してみせますが、彼らの生きる現実が変わるわけではありませんでした)。こうした人たちを「午餐または晚餐」に招いたとして、「彼らは返礼が出来ないから、あなたはさいわいになる」と言われます。貧しい人はその貧しさに打ちのめされるように生きるしかなかったし、体の不自由な人の「不自由」、足の悪い人の「悪さ」、目の見えない人の「見えない」ということは、その結

果彼らが生きる生活において致命的だったはずですが。招かれたとしても、返礼ができないのはもちろん、「街の大通り小道」(21節)「道やかきね」(23節)など、戸外にたむろし、施しを受けることで生きるよりありませんでした。そんな人たちの「不幸」の身近にいて「施す」ことで「あなたはさいわいになる」人たちがいました。

一方、「友人、兄弟、親族、金持ちの隣り人など」は、「午餐または晚餐」に招くことをしない方がいいと戒めます。その理由は「返礼を受けることになるから」です。「招いたり、招かれたり」は、普通に生きる人の普通の生活としてあり得ることです。ルカによる福音書が、そんな普通を拒むのには理由があります。「招いたり、招かれたり」ではなく、そうして普通にしてしまう時、抜け落ちてしまうことが納得できないのです。そのことが、イエスが招かれた食事の席の

“列席者”のひとりの言葉「神の国で食事をする人は、さいわいです」になって書き残されます。だからと言って、神の国で食事をするという“幸福”が具体的に何を意味するのはよく分かりません。ルカによる福音書は、そこで繰り広げられている現実に、普通ではない向かい合い方をするイエスの様子が描かれます。それは“安息日に人をいやす”(13章12節、14章3節)だったり、“自分を低くする者であれ”(14章11節)だったりしますが、これもまた「神の国で食事をする人・・・」のことにつながるのだと思います。その社会で、多数ないし普通に振舞うことを、イエスは選びませんでした。多数ないし、普通に振舞う人たちに、はじき出される人たちを目の当たりにして、むしろその人たちを“神の国で食事をする人”と受け止めていました。イエスというよりそのあたりのことを描写するルカによる福音書は、直接その人たちというよりは、その周辺にいる人たちのことに関心が向いています。たとえば、14章14節の“彼ら”は「貧しい人、体の不自由な人・・・」などのことであつたとして、“あなたはさいわいになる”“あなたは報いられる”の“あなた”は、少し距離を置いてそれらのことと向かい合える人たちです。しかし、そんな人たちの、そんな余裕に付き合っているにしては、例えば“友人、兄弟、

親族・・・”などとの普通の関係を拒んだり、“貧しい人、体の不自由な人・・・”などに言及し、彼らを“街の大通りや小道”“道やかきね”で見つかる人として描くのは、それらが殊更ではなく、イエスの生きた生活に近いところで出会っていたからです。ルカによる福音書はといえば、関心があつたのはそのように生きることよりは生きる形であつたように読めます。

(紅葉坂教会、北村慈郎牧師による「未受洗者への配餐」のことでの争いは、紅葉坂教会、北村慈郎牧師対山北宣久教団議長及び山北派常議員の“激突”の構図になっています。実はそこに、もう一つの見えない争いがあって、それはより小さいものと寄り添って生きてきた紅葉坂教会、北村慈郎牧師、その結果としての未受洗者への配餐とそれを公表すること、その取り扱いを“不当”とはするものの、未受洗者への配餐を、自分のこととしては語らないこととの間には、隔たりがあります。例えば、貧乏人、不具者、足なえ、盲人の傍らで生きること、そのような人たちに関心があつたこととでは違いがあつたようにです)。

「“まめ”にもいろいろありますが」

“まめ”にもいろいろありますが、そんないろんな“まめ”で楽しんだ公同の5月でした。いろいろな所からそら豆を届けていただいて、みんなで目一杯楽しんだのです。そら豆といえば、あのさやの中のフカフカのベッドです。私も以前始めてそら豆のさやの中を触ったときにはそれはそれは感激しました。まさに豆のベッドのようにフカフカなのですから。気持ちいいったらありませんでした。今年もみんなでその感触を手で感じ、そしてその場で塩ゆでされたそら豆を味わう！なんて贅沢な体験でしょう。更に1人ひとさやずつ持って帰ったそら豆はお家で味わったり、翌日のお弁当に入っていたり、各ご家庭でいろいろ味わって下さいました。ただ味わうだけじゃなく、それまでの楽しさをみんなで共有できる幸せを改めて感じる事ができました。公同の子ども達の生活はこんな風にいろいろな方々に支えられている、その事を改めて感謝です。

まめにもいろいろありますが～で、今年の私のまめトピックスNo.1は...カラスノエンドウです。別名ピーピーマメ、こちらのほうが有名かもしれません。え？ピーピーマメ？と、思われるかもしれません。普通に鳴

らして遊ぶだけならそう思われても仕方ありませんが今年はそこから更に～楽しみ方を見つけたんです。ピーピーマメがはじける音ってご存じですか？私も先日初めて聞きました。今までも実は聞いていたけど、気づかなかったのかもしれない。今思えば何ともったいない～です。いつもぼっぼぐみの子ども達と散歩している津門川沿いにピーピーマメがあります。先日もそこへ笛を作りに行こう～と思って行ったのですが少し遅くて、もう黒く枯れ始めていました。あらら...残念～、そう思って黒くなったさやをさわると...パチン！少し触れただけで弾けたのです。これは面白いかも～でみんなで触ってみるといろんなところでパチン！パチン！と音がします。黒く弾けたピーピーマメはくるんとねじれます。その様子に『ひじきみたい～』ですって。ぼっぼさんがそんな風に言うから大人は大爆笑でした。だってほんとにひじきみたいだったんです。そのうち触らなくても自然に弾けることに気づいてみんなで耳を澄ませて、自然が作り出す音を楽しみました。パチン！と音がする度にみんなの顔も弾けるようで何だか素敵な時間でした。

ぽっぽさんと過ごしていると、私もいろんな発見を子どもたちと楽しませてもらっています。今までも、聞いていただろう音、そこにあっただろう草花にも改めて出会わせてもらっている毎日です。さんぽの途中にカエルの鳴き声がひびいてくる、それがどんどん仲間同士で鳴きあっていてそれを聞いている時間がすごくおだやかだったり。たんぽぽやアザミのわたげをとばすだけで、充分楽しめちゃったり～。いろんな体験をみんなで感じている！！その事にワクワクドキドキとまらないぽっぽさんたちを見ながら、私も同じように

感じています。こんなにも、あんなにも楽しめるんだ～！！そう教えてもらう毎日なのです。明日はどんなことが待っているんだろう～どんなみんなに出会えるんだろう～そう思うと明日が楽しみです。

(石堂 寛子)

「卒園してから1年・・・ 楽しい？平凡？いえ、ぐーたら??」

2007年3月、あいが卒園し、私は雨の日も風の日も自転車で二人乗り、またはゆいが生まれてからは三人乗りで通った共同幼稚園を2年間のお休み。今ふり返ると在園中、朝はとにかくバタバタしていたなあ・・・。いつも時間ギリギリなので171号線の信号を無視していて、それを見かけたお友だちのお母さんに驚かれたこと数回。それに比べ今はあいの朝食&学校の用意を少し手伝うだけでいいので、あいの髪を三つ編みにするほどの「余裕あり!」の生活。そ

して毎朝7:45にマンションの下まで降りて行って「いってらっしゃーい」と見送ると、その後は私のコーヒー&ゆいの12chといったのんびりとした一日がスタートする・・・といった毎日です。そんなぐーたら、いえ平凡な毎日と卒園してからの1年を少し紹介します。

只今2才3ヶ月の妹ゆい。朝、起きてくると閉まっている襖をそそそそ～～と開けて毎朝「こんちは～」(こんにちは)って登場してくる。もちろん私の返事も「ゆいちゃん、こ

んにちは～」楽しい一時です。そんなゆいは春になり、トイレトレーニングの真っ最中。あいの時同様、布おむつの方が早くおむつがとれる！と信じて家にいる時は布にしていることが多かったのに、姉妹同じようにはいかない。上は「かわいいパンツちゃんが濡れたらかわいそう」の一言で2才前には楽勝でおむつとおさらばしていたのに……。ガックリ&ハア～と思いつけたこの春。しかしゆいが初めて自分からトイレに行くと言い、成功した時は母子3人で大喜びしました。特にあいの言葉は「ゆいちゃん、よかったね～、えらいね～」の連発。そしてその後続いて言った言葉が「う～ん、なんだかお祝いしたくなってきた！ホットケーキが出てくるとは思いもよりませんでした。でも、普段は口にしないけれど自分が園長先生にホットケーキをしてお祝いして頂いた事、ちゃんと心に残っているんだ～と感激した一時でした。

そんなあいを見ながら思うこと……。卒園しても公同で得たこと……。ずっと今も続いていると思うことがいくつもあります。

一つは、3年間幼児期（特に公同で）にしか出来ない楽しい毎日を一杯過ごさせて頂いたので、学校に行っても前向きに頑張っているようです。だからか1年生3学期の通知

表のコメントには、“話を聞く目は真剣で、輝いています”とありました。

又もう一つは絵本で、やはりいろんな本をいろんな時に読んでもらったあいは、今も本が好きです。特に卒園間近に絵本の勉強会で教えて頂いた『ピーターラビット』（ビアトリクス・ポター作、福音館）のシリーズにはすっかりはまり、これをいつもランドセルに入れ（小さいからピッタリ！）授業中の待ち時間に読んでいます。それにそう、近頃またお気に入りの本が出来ました！『ふわふわしっぽと金のくつ』（デュ・ボウズ・ヘイワード作、パルコ出版）という本です。これはイースターの日教会学校で読んでもらった本なのですが、楽しいと思える絵本に出会えたこと、又今も尚夢中になれる絵本に出会える娘はかなり幸せだと思ふし、有難く思っています。

ゆいは……。と申しますと、5月の“このゆびとまれ”でのこと。この日もお土産に手作りのキットとお菓子を頂いたのですが、お菓子を見たたん待ちきれなくなった彼女は、まだ少し園庭で遊ばせて頂けるところをそそくさと失礼し、あっという間に自転車の後ろでお菓子をペロリ！そしてそのお土産のキット『はらべこあおむし』（エリック・カール、偕成社）のあおむしの顔だけを大切に持ち、「かわいいねエ～うさぎちゃん」とつぶやいている……。終わっ

ている。いえいえ、まだこれから！！

そう、そんなゆいでも三輪車をこぎながら「ギコギコギ〜ッ」(『ゆうびんやさんのホネホネさん』、福音館)と言っていたり、先日は傘をさして歩いていると「わたしのかさ」と言っでごきげん これは『かさ』(松野正子、福音館)に出てくるフレーズ。

そういえば、先日の絵本の勉強会の時、園庭で遊ばせて頂いていたのですが、帰り道またまた自転車の後ろでつぶやいているのです。「オレンジいろのぼうし、かぶりたいな〜」と(オレンジ色の帽子、ぼっぼさんの帽子を被りたいという意味)。彼女が楽しそうに見えた子どもたちが皆オレンジの帽子をかぶっていたのでしょ

うか。でも2才の子の目にも楽しそうに映る共同幼稚園は、やっぱりは・な・ま・るです。

という訳で、あと9ヶ月ほど冬眠します。Zzz・・・春になったらまたよろしく願いいたします。(あっ！でも絵本の勉強会と“ゆっくりと聖書を読んでみませんかの日には下山！！”しています。心の栄養&2人の娘に優しくなる為に)

(森川 径衣)

聖書研究祈禱会

毎月第1、第3水曜日午後7時から、場所は西宮共同教会集会室です。7月は2日、16日になります。

聖書はキリスト教の神のことを、人の言葉で語ってみようとした試みです。

そんな試みで残された聖書言葉は、当然あれこれ難解だったり、神の前に立つことを拒む人というものに呆れ返ったり、生々しかったりしますが、“神の前に立つ一人として謙虚に生きる”ことと、その意味を、言葉を尽くして語ろうとします。じっくりと腰をすえて聖書を読むのが、西宮共同教会の聖書研究祈禱会です。

2008年6月 あんなこと こんなこと...

- ・ 6月 1日(日) 早天祈祷会
- ・ 6月 7日(土) 畑作業
- ・ 6月 8日(日) 花の日礼拝
- ・ 6月 8日(日) 教会学校教師会
- ・ 6月 10日(火) ゆっくりと聖書を読んでみませんか
“「赤毛のアン」の登場人物たちの聖書の言葉、その出典と意味を探る”
- ・ 6月 14日(土) “絵本オペラ”の集い
- ・ 6月 15日(日) 統一マダン
- ・ 6月 30日(月)～7月1日(火) 年長組宿泊保育

にしきた商店街...

- ・ 6月 1日(日) 津門川川掃除
- ・ 6月 5日(木) にしきた街づくり協議会
- ・ 6月 5日(木) にしきたハンギング講習会
- ・ 6月 13日(金) 西北活性化協議会
- ・ 6月 17日(火) にしきた街舞台実行委員会
- ・ 6月 20日(金) メリー・ウィドウ前夜祭 “踊って、跳んで、アン・ドウ・トワ”
- ・ 7月 8日(火) 南昭和町七夕コンサート

アートガレージ

- ・ 毎週火～金曜日 9時～17時 毎週土曜日 15時～17時 開室日
- ・ 6月 3日(火)、17日 丹波野菜市
- ・ 6月 3日(火)～8日(日) だろんこ子ども写真展
- ・ 6月 14日(土) アートガレージ運営委員会
- ・ 6月 28日(土) お父さんのための糸のこ教室
- ・ 6月 12日(木)、19日(木)、26日(木)
「兵庫県南部大地震を記録する特別セミナー」

関西神学塾

- ・ 6月 6日(金) 午後7時～9時 桑原重夫 使徒行伝を読んでみよう(34)
- ・ 6月 13日(金) 午後7時～9時 勝村弘也 ヨブ記釈義(10)
- ・ 6月 27日(金) 午後7時～9時 田川建三 マルコ福音書註解(中)(50)
- ・ 7月 12日(土) 午後7時～9時 松村重雄 宣教学特別講義
- ・ 8月 21日(木)～22日(金) 関西神学塾・「教会と聖書」共催夏期合宿

教会学校から

《5月の活動報告》

5月4日(日)

いちご摘み

5月11日(日)

お母さんと一緒に礼拝をする

小さなパーティで

“イチゴケーキを作って食べる”

5月18日(日)

英語落語のDVDを見る

5月25日(日)

積み木で遊ぶ

《6月の活動予定》

6月1日(日)

わが街クリーン大作戦

6月8日(日)

花の日合同礼拝

6月15日(日)

“家族で一緒に集まろう”

6月22日(日)

グループ作り“IDカードを作ろう”

6月29日(日)

ブーメランを作ろう

大切な贈り物・津門川 70

まいのなんでも案内

今年も髪の色が湿気に負けてまとまらない季節になってきました、皆様いかがお過ごしでしょうか。最近母親経由で「読んでますよ」というお声をいただく事が多くて、嬉しいやら恥ずかしいやら緊張するやらです。ドキドキ。まあ、公同通信におけるあたしの連載、ていうのは、昔の『母の友』における「ナンジャモンジャ博士」のような存在を目指しているの（・・・て、この例え分かる方どのくらいいるんでしょう）、気軽に多くの方に読んでもらえたら、それで本望です。さて、今日はですね、紹介シリーズはお休みして、私の最近についてお話し致します。実は、今これを書き下しているのは東京の片隅です。素敵なカフェでアップルパイとコーヒーに舌鼓を打ちながら、ノートに手書きしています。いつもはPCに向かって思いつくまま書くんですが・・・何となく、カフェで原稿書くってカッコよくないですか？ちなみに隣のテーブルでは、大学の教授と学生と商店街の人らしき方々が、全国商店街振興組合の打ち合わせをしています。どうして東京で新町（京都）やら福島（大阪）やらの地名を聞くのでしょうか。うっかり、にしきた商店街の名前すら出てきそうで怖いです。日

本は狭いですね。

と、いうわけで今年に入ってからもう10回近く東京に来てます。完璧に距離感が麻痺してます。何しに来ているかと言われれば、それは就職活動の為に他にないわけで、春から園長に会うたびに「就活なんかせんでええやん」と言われつつ、そんなわけにもいかず、ストッキングを何枚も駄目にしつつ就活してるわけです。もちろん就活にかこつけて、友達の家泊ったり美術館に行ったり兄（今年から社会人）にご飯おごってもらったりしてますけどね！で、なぜ東京に来るかと言えば、それは出版社に入りたいたからなのです。別に『働きマン』に憧れたわけではなく、ただ純粹に、自分が一番好きな物、やりたいこと、自分の力を発揮できることを探したら、やはり本に行き着きました。

この連載の前身も「児童文学案内」ですし、今大学で西洋古代史を専攻しているのも児童文学がキッカケ。本屋になら何時間いても苦にならないし、やっぱり何より、子どもの本をもっと広めたい。ケータイ小説以前に、出版物としての本で、物語の面白さを知ってほしい。絵本の読み聞かせ文化は広まってきているし、字を読むことは当たり前のように皆が

習っている。それなのに、未だ「本は難しい」「文学には近づきがたい」というイメージがあって、「物語を読む」ことが身に付いていない。小さい頃から本に親しんでいれば、一回「離れ」てしまっても、悩んだときに、先人の知恵の集大成である本に答えを求めに「戻って」くることができるはず。私だって、今は漫画や音楽や、他のことが大好きで、一冊も本を読まない日だってある。でもどこかで「本があれば大丈夫」と感じている。そんな人を増やしたくて、出版社で、児童文学に携わる仕事をしたいと思ったのです。

しかし現実には甘くなかったです。いくら偉そうな事を言っても、実際の就活というのは、本当に限られた紙や時間で、どれだけ自分をアピールできるか、という勝負。特に出版社は採用人数が少なく、軽く20社は落ちました。書類選考で切られた会社も少なくな、面接でも言いたい事を言えず……。4月に入ると周囲の友人が次々と進路を決め、ゼミの教授からのプレッシャーもかかり、自分は目指してる道には向いてないのかもしれない、と本気で悩みました。それでも自分は自分であることから逃げられません。就活は自己分析の良い機会、と言いますが正にその通りで、これほど自分という人間の事を客観的に考え続けた4ヶ月間はなかったと思います。……と、

過去形にした辺りでお気づきの方もいるかもしれませんが、そんな就活が先日、無事終了しました！あとは単位取って卒論書けば、来年度からOLです。希望通り、児童書出版社に内定をいただきました。この連載はどうなるか分かりませんが、本職ともなりますので、できれば続けたいなあと思っています。また来月からはお気楽な紹介に戻りますので、これからもご愛読お願いいたします！

（高橋 舞）

つとがわ 編集後記

田舎には、家から小さい谷をはさんだ向かいの小山に“一族”だけの墓地があります。盛り土に台座、その上に墓石が乗っかるだけの墓が、三基そこには並んでいます。いわゆる“納骨室”にあたるものが備わっていない事もあって、4年前に死んだ母の遺骨は、納骨の機会のないまま、人の住まなくなった家の仏壇の片隅に置かれています。4年前に母が死んだ時、“祭壇”に飾られた写真は、死ぬしばらく前に墓地の掃除に出かけた時、墓地の片隅で数珠を手にちょこんと座っている様子を写したものでした。墓参りで、花をそなえたり、ローソク・線香を立てたりするのは、隣接する竹藪の竹が花立になったり、ローソク・線香立てになったりしました。母が死ぬ2年程前まで、それを準備するのは父の仕事でした。

墓地は竹藪のトンネルを歩いた先にあって、行き来がしやすいという訳ではありません。今、墓の移設のことが持ち上がっていますが、納骨室にあたるものを設けるぐらいで、いいのかなと思っています。

(K)

今年もこの時期がやってきましたー！先日、子どもたちと一緒に梅ジュースを作りました。そして第一弾を味わうことができました。いい香りでさっぱりしていて、この季節にピッタリ！そして今年も私も家で作ることにしました。幼稚園では梅ジュースを、家では大好きな梅酒を～家で梅酒を作るのは初めてでドキドキワクワク！味わう日が待ち遠しいです！

(N)

先月、生まれて初めて潮干狩りに行ってきました。獲りはじめると夢中になって、気付くと浜からどんどん離れていて～ということが何度もありました。夢中になって遊んでやっぱり楽しい！！そこで出会った子どもに捕まえたカニをあげたり、話をしたりという場面もあって、人と出会う

こと、自然と出会うことの楽しさに触れたステキな1日でした

(Y)

先日久しぶりに兄家族が遊びに来ていました。4ヶ月ぶりくらいに会うと甥っ子の背がぐんと伸びて驚きました。姪っ子は私の顔を見て大号泣！でも甥っ子がそばにいと安心して泣きやんで～。「お兄ちゃん」の存在は偉大なあ～そう感じました。私にとっても兄はそうだったんだろうなあと、父親になった兄をみて思いました。

(I)

何ともいえない事件もある世の中だけれど、ここでは庭の話題を。一列で、葉っぱの裏に横並びびっしり、たぶん「ちゃどくが」。見るだけでやられると植木屋さんに教えられた猛毒の毛虫。5年前の10月の末、綺麗な黄色に輝くつわぶきの花の満開に出迎えられて今の家に転居、植樹は豊かにあったものの、でも庭は荒れ放題だった。冬の間は目を瞑り、春、「園芸家」志望は始動、しかし知識も知恵もなく早速先住者に手痛くやられたのが、件の毛虫だったので。強烈パンチでしたが、まあめげずにそれから先手必勝を目指して毎年戦いを。で、ぼつぼつ危ないぞと椿を見にいくと今年もいました。横並び民族大移動の一群が！こればかりは同居はできません。早速お引き取りいただいた次第です。

その庭にはあじさいが5種、咲いています。新たな花が咲いているのや、花芽を目にした時の幸せ気分！雨上がりの美しさを眺めるのもっと幸せ。又、家の前は春は「雪柳ロード」そして秋は「彼岸花ロード」も。今はこれまた多種のあじさいが輝いています。

(J)